

『へき地医療を学ぼう！ in 庄原』プロジェクト

提案団体：へき地医療研究会

代表者：薬学科 4年 堂脇 美緒

顧問：薬学科 教授 杉原 数美

実施計画

実施期間 2016年1月21日（木）～2016年3月1日（火）

奨励金額 136,340円

活動目的 へき地医療ならではの取組を学び、多くの人に知ってもらうこと。

達成目標 庄原赤十字病院の訪問と、大学祭における発表原稿の作成。

計画概要 病院施設ならびに移動診療車の見学

パートナー 庄原赤十字病院

活動・成果報告

実際に無医地区に赴き、病院施設ならびに移動診療車を見学しました。無医地区の抱えている問題点や病院が行っている取組みについて知ることができました。また、移動診療車で訪問した地区での診察、検査、薬剤交付といった現地で行われている一連の医療活動を移動診療車に同乗させてもらい見学しました。さらに、移動診療車に搭乗している医師や看護師、薬剤師などの医療従事者の方々にやりがいや大変なこと、そして患者様の声をインタビューしました。



成長度

1. どのような課題に直面し、(それを乗り越えるために) どんな苦勞がありましたか。

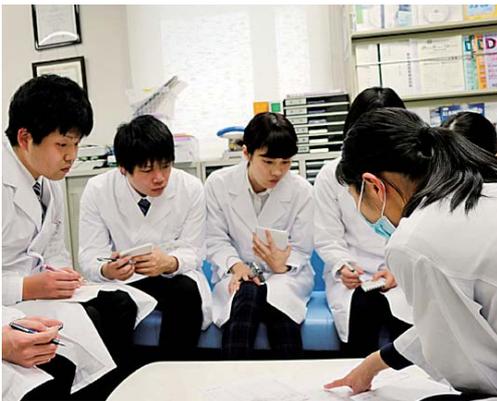
移動診療車の満足度やへき地における問題点を調査するための患者へのアンケートを作成するにあたって、患者のプライバシーに配慮し、個人の特定をされないように気を付ける必要がありました。また、医療関係者側から直接患者にアンケート用紙を渡すと、アンケートに回答しなければならないという強制力が働く恐れがあるため、患者の自由意思による回答が行えるように工夫をしなければなりませんでした。

今回、移動診療に同行する際に、本来診療車に搭乗している医療従事者に加えて、学生が搭乗することで訪問人数が多くなり、患者に不安感を与えてしまうため、病院側と人数調整を行う必要がありました。

2. その課題をどのような努力や工夫で乗り越えましたか。

アンケート倫理に関する事項を書籍やインターネットを使って調べ、無記名回答にする、患者が特定されないように病名や





移動診療車の利用地区を聞かない、といった配慮をしました。アンケートを回答するにあたって直接患者に用紙を渡すのではなく、医療機関にアンケートボックスを設置させてもらい、回答してもらうことで強制力が働くのを軽減することができると考えました。

病院側と相談の結果、一度に訪問する人数は少ないほうがいいということで、診療車に同行する人数を絞ることにしました。また、少人数を何度かに分けて同行させることで、一つの訪問先だけではなく、複数の訪問先の様子を伺うことができると考えました。

3. 自分たち（チーム）が一番成長したところはどこですか？理由もお願いします。

実際に無医地区に赴くことで、その土地の不便さや高齢化などの問題点を実感することができました。巡回診療を通じた地域医療の連携や医療従事者と地域住民との関わりを学び、無医地区における病院の重要性を確認するとともに、今後自分達がどのような医療従事者となり無医地区に限らず全ての患者とどのように関わっていきたいかを考えるきっかけとなりました。

また、今回の見学を通して、薬剤師の仕事の幅広さを目の当たりにし、これから薬剤師を目指していく上での視野が広がりました。これからの薬剤師は都市部ばかりではなく、地方にも目を向けて地域医療に貢献していく必要があると学びました。

4. 企画に参加したパートナーからの感想や気づき

今回は病院および移動診療車の見学お疲れさまでした。今後も地域の人たちに還元できるように活動を継続、拡大していただきます。

本院は県北部のへき地医療の拠点病院として様々な活動をしておりますので、将来このような業務に意欲を持って携わる人が大勢出てくることを期待しております。

構成メンバー（学科・年次・氏名）

薬学部薬学科 4年 堂脇美緒、濱崎千尋、井上紗也香、平本耕一、富吉博也、金澤圭祐